刊行の辞

日本作物学会　会長　大杉立

地球環境を健全に維持しつつ人類を持続的に繁栄させることは，現在を生きる我々に課せられた大きな使命である．そのために食料・環境・エネルギーの諸分野における様々な問題に積極的に対応することが重要である．

作物学はこのような問題解決に密接に関わる学問であり，作物に関する様々な側面，たとえば，作物の起源と伝播，形態，生理，生態，環境との相互作用，収量性，栽培管理，品質などについて研究するものである．そして，その成果を環境と調和した持続的な作物生産を可能にするような栽培技術の開発，新たな品種育成などにつなげることをめざしている．

このように作物学は作物を総合的に捉える学問であることから，使用される用語も多岐にわたっている．これまで，日本作物学会では「作物学用語集」を刊行し，用語の表記法，日本語と英語の対照などを示してきた．これまで何度かの改訂を行ない，2000 年 3 月に，『新編　作物学用語集』（養賢堂）を刊行した．

その後，用語の表記法などだけではなく，関連する知見を含めて用語の解説を行ない，作物学に関する研究・教育に資する書の必要性が指摘され，2006 年に常設の用語委員会の業務としてその刊行作業が開始された．今般，ここに『作物学用語事典』の刊行をみることができたことは大変喜ばしいことである．

本用語事典は，大学の専門課程の学生，大学院生，研究・行政・教育機関の若手職員など，これからの作物学および関連分野の研究・教育を担う若人をおもな読者対象とし，彼らにとってより理解しやすい形をめざした．その結果，本用語事典では，個別の用語ではなく作物学のおもな分野ごとに，166 の大項目を立て，それに関わる用語を見開き 2 ページの中で写真，図を含めて解説することとした．

このような新しいスタイルは用語委員会における精力的な議論の結果であるが，こうすることで関連する用語も併せて理解できるとともに，その用語についてもより深く学ぶことが可能になり，利用者の利便性を増すことができたと考えている．また，本用語事典にはこれまでの作物学における多くの成果が凝縮されており，若手のみならずすべての作物学および関連分野の方々が座右の書として研究・教育に活かしていただけることを期待している．さらに，農家の方々はもちろん，農業に直接かかわりのない一般の方々にも気軽にご利用いただき，作物や農業への理解の一助にしていただければ幸いである．

本用語事典の刊行は，用語委員会（松田智明委員長）が中心となり，多くの会員の協力のもと日本作物学会の総力をあげて行なわれた事業である．執筆にあたられた会員各位，そして，企画から刊行まで多大の労力を費やされた松田委員長以下用語委員会の皆様には，心よりお礼申し上げる．

さいごに，本書の企画・編集にあたってご尽力いただいた，社団法人 農山漁村文化協会に感謝申し上げる．

2010 年 1 月